

「金沢マラソン 2016」石川県内への経済波及効果（確定値）

このたび、金沢マラソン組織委員会との連携協定にもとづき、金沢学院大学、金沢工業大学、金沢星稜大学により石川県内への経済波及効果（確定値）が算出されましたのでお知らせいたします。

1. 結 論

金沢マラソンの開催による**経済波及効果は約 20.1 億円**と推計される。
※昨年大会 18.9 億（1.2 億円増）

2. 前回大会との差異

- (1) 定員増（12,000人→13,000人）
参加ランナー増につながった
- (2) 県民枠の創設（1,000人）
県民の割合が増加した反面、国外、県外の割合が減った
- (3) 開催日を11月から10月へ変更
昨年と比べ天候がよく、沿道応援者が増えた
- (4) 石川県産業連関表が平成28年12月に改正され、基礎データの単価見直しがあった

3. 経済波及効果推測結果

金沢マラソン開催による石川県内への経済波及効果は、マラソン参加者が県内で消費することによって生まれる「直接効果」が13.5億円、直接効果によって誘発される「第1次波及効果」が3.6億円、「第2次波及効果」が2.9億円であり、それらを合計して算出した。（【表1】のとおり）

【表1】経済波及効果の内訳

		金額(百万円)	
		2016確定値	2015確定値
	直接効果	1,356	1,188
	第1次波及効果	358	391
	第2次波及効果	296	315
経済波及効果		2,010	1,894

4. 推計の前提条件

今回の推計は、前日受付ランナー人数及び沿道参加者数等を基にして、消費単価などの一定の根拠に基づいた前提条件を設定して推計した。

なお、今回の経済波及効果の推計にあたっては、マラソンを実施している間の交通規制や渋滞発生時などのマイナスの経済効果は考慮していない。